

〇コロナ禍で伝える 我らがまちの誇りと伝統

コロナ禍での決意の渡御・還御からはや6ヶ月が過ぎようとしています。去る2月10日には、政府の感染症対策本部から基本的対処方針変更版が発表され、3月13日から、マスクの着用については個人の判断に委ねられ、また新型コロナウイルス感染症自体についても、5月8日からは季節性インフルエンザと同等の5類相当に位置付けられるとのこと。各団体・法人あるいは事業者は、マスクの着用については、この変更版基本的対処方針に沿って、業種別ガイドラインの見直しを行い、現場や利用者へ周知するものとされております。まさに「ウイズ・コロナ」、「アフター・コロナ」に向けて新しい段階に直面しているといえるでしょう。

とはいえ、新型コロナがこの世から消え去ったわけでもありませんし、その政府方針でも示されているように、密集・密閉・密接の「3密」の回避、人と人との距離の確保、手洗い等の手指消毒、換気等の基本的な感染対策は引き続き取り組むよう求められているところです。出口は近いようですが、まだまだ先のように。

我々は、伝統とウイルス脅威との狭間でもう少しの間辛抱して、丁寧な議論と工夫が求められております。引き続き地域住民の皆様のご理解と各祭組関係者の皆様のご協力をお願いする次第です。

江戸時代以来宿場町として多くの出会いと別れの舞台となった見付ですが、維新後も多くの人々が往来していたのでしょうか。戦前には『見付の絵葉書』と題した写真絵葉書セットがいくつも販売されていました。どうやら一つだけではなく、様々なセットが知られており、裸祭の浜垢離や道中練り等の様子が絵葉書の古写真として残されています。そのうち見付の名所（西は境松の国分寺から東は愛宕まで。酒井の太鼓の写真も。）を12枚セットにしたものが、文進堂（宿町）で販売されていました。その表紙袋は、なんと旧見付学校校舎を背景にした裸衆の道中練りで、なぜか紙人形風に描かれています。しかもそれぞれが持つ提灯はいずれもオヤ町のもので、練りが大きく4つで構成されることをシンプルに示しています。

今このイラストを見ると、国指定の文化財が揃い踏み of 贅沢な内容ですが、『旧見付学校附磐田文庫』の国指定は昭和44年4月12日、見付天神裸祭の国指定は平成12年12月27日、いずれも戦後のことですから、当時の見付の人々がそれを知る由もありません。それでも我々の先祖・先輩たちは、この二つを地域の誇りとして愛着をもってこの画題としたに違いありません。そう思いを馳せ、改めて自分たちの地域の伝統と誇りを大切にしたいと思った次第です。



文進堂発行『見付絵はがき』表紙袋の挿絵

◆静岡県から団体表彰を受けることとなりました

見付天神裸祭保存会が、『ふじのくに文化財保存・活用推進団体』として表彰を受けることとなりました。いわゆる新型コロナ禍の中で感染症対策に取り組みながら伝統ある祭礼の実施を行ったことに対するものです。これは、各町の関係者の皆様が保存会事務局から提案した内容を丁寧に議論していただき、また梯団長・警固長の皆様の強力なリーダーシップの下に、感染を拡大させることなく、安全安心に務めていただいたことに因るものです。見付地区住民の皆様のご理解、各祭組関係者の皆様のご協力に深謝し、ここに謹んで報告申し上げます。

なお、表彰式は3月16日午後3時から静岡県庁（静岡市葵区）にて執り行われます。保存会からは代表して、中山保存会長、宇藤副会長（崇敬者会責任役員）、伊藤副会長（実行部長）が出席します。表彰式の様子は次号報告します。

◆見付各町と『裸祭を語る会』を実施しました

令和2年の3月以降、新型コロナ禍がこの遠州地方をも席卷し、お祭りも中止を余儀なくされてきました。そんな中、令和4年度の裸祭は、御斯葉降し、浜垢離、神輿渡御、各町の堂入りを実施することができました。しかし、令和元年度までやっていた裸祭の完全復活までにはまだ再生させなければいけないものがたくさんあることに気づきます。今年度の祭りがどうであったか、これから祭りを再生させるには何を考える必要があるのか、各町の実情をお聞きしながら、意見交換をする場を設けたいと思い、令和5年1月8日に中央町から始め、令和5年2月26日に元天神町を終え、28町全てで各町の公会堂、公民館等を利用し、開催することができました。今回は、意見交換のほかに、伊藤実行部会長から来年度の浜垢離各町浜遊びの場所とウォークラリー開催について現段階での提案をいたしました。

●時 間：各町にて設定 1～1.5時間を目安に

●主な出席者：

【各 町】自治会長（もしくは代理者）、各町裸祭保存会長、令和4年度警固長（3名程度）

【保存会】中山保存会長、伊藤実行部長、大橋事務局長（3名程度）

●主な内容・テーマ：

- ・今年度の各町における裸祭の内容とその問題点
- ・来年度以降、裸祭を復活させるために考えなくてはならないこと

●各町から出された意見（一部） ※現在取りまとめ中です。

- ・自町からは大人連17名、子供連13名の参加があり、昨年の裸祭はしっかりできたと思う。
- ・お堂に各町の裸が入るとき、若い人はどうしても練ってしまう。西区は守れたが、ルールを守らなかった梯団、町内があった。ルールは守った方がよい。
- ・町内には裸祭の実施を伝えたときは、「行進」するに留まると伝えたため、敢えて出ようという大人がいなかった。事後の反省では「出てもよかった。」という意見が出た。
- ・令和元年ほどの参加者に戻ってくれるか不安である。いかに戻すか考えなければならない。
- ・5類になれば今年の祭りは輿番も含めて完全復活できると考える。
- ・新しく越してきた人にとってフンドシは抵抗感がある。子どもは特にそう思うが、フンドシでなくてもいいというハードルの下げ方が必要だと思う。
- ・大提灯の修理負担について見付地区全体で考えてほしい。
- ・交通規制について、来年度に向けて警察と意見調整をして大祭に臨みたい。



元宮町にて



富士見町にて

○今後の予定

4月16日（日）理事会 （19：00～）

5月13日（土）総 会 （19：00～）

※ここでは、現在事務局で調整中令和5年度活動計画のうち、主要なものの一部を掲載します。詳細は、別途各関係者にお知らせします。

※R5警固長・青年部員等の名簿について、未提出の各祭組R4警固長は、至急事務局までご報告ください。
(ご報告いただけない場合はこちらからご連絡差し上げます。ご承知おきください。)